



迫る洪水の危機―― あなたはどこへ避難するか

△令和元年台風19号で増水した利根川。水位は、堤防が決壊したカスリーン台風災害を超える9.61mを観測した。
(写真出典：利根川上流河川事務所)



▲1947年、カスリーン台風による利根川堤防決壊で浸水した旧栗橋町。
(写真出典：利根川上流河川事務所)



▲利根川が氾濫した場合の、久喜駅付近における浸水想定(赤いテープの位置)。利根川から8km以上離れていても、大人が完全に浸水する深さ。

自分の命は自分で守る

3 確認しておきたい つのポイント

- 1 自宅の浸水リスク
- 2 避難の判断・方法
- 3 避難所での過ごし方

近年、全国各地で豪雨による災害が発生しています。本市においても令和元年台風19号では、1日当たりの総降水量が市内で観測史上最大となる226・5mmを記録。栗橋水位観測所では利根川が氾濫危険水位を超え、いつ水があふれてもおかしくない状況に。最高水位は、埼玉県東部に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風災害を超える、9・61mを観測しました。幸い、最悪の事態は免れたものの、多くの方が避難所で不安な一夜を過ごされました。

洪水は、いつ発生するかわかりません。日ごろから洪水に対して備えていただくとともに、避難先や避難方法は必ず事前にご確認ください。

問 消防防災課危機管理係（内線2644）